

おのれを知る

(ルカ14・7～11)

一、パリサイ人の姿

7節をご覧ください。イエスは、客として招かれた人たちが上座を選んでいる様子に気がついて、彼らにたとえを話された。とあります。招いたのはだれだったのでしょうか。7節から11節の記述を、その前の14章1節からの続きであるとし、と「パリサイ派のある指導者」ということになります。主イエスは、その「パリサイ派のある指導者」から、自分の家に来て食事をしよう、招かれたのでありましようか。また、7節の記述より、「客として招かれた人たち」はパリサイ人であったことが分かります。

招かれたパリサイ人たちは、好んで上座に座ろうとしていました。人から尊敬されたいという思いが強かったことが分かります。もちろん、パリサイ人ごととして片付けることはできません。主イエスの弟子たちだって、自分たちの中で一番偉いのはだれかと議論をしたことがありますから、同じです。みんな同じです。心の中では「人から尊敬されたい。一目置かれたら」と思っています。パウロが語った言葉で言うなら、生まれながらの人、肉の人の性質です。パリサイ人は例外を除き、みな「肉の人」

の傾向が強い人たちでした。聖書には詳しくあったものの、罪に縛られて生きていた、救いを必要としている人たちでした。

二、主イエスのたとえ

イエスは、客として招かれたパリサイ人たちが、好んで上座を選んでいる様子を目にして、たとえを語られました。8節、9節です。△結婚の披露宴に招かれたときには、上座に座ってはいけません。あなたより身分の高い人が招かれているかもしれない。あなたやその人を招いた人が来て、『この人に席を譲ってください』と言つことになりません。そのときあなたは恥をかい、末席に着くことになりません。と。聞き方によっては、ごく真つ当な社会常識を教えたかのようにも思えてしまいますが、ちがいます。

主が語られたことばの続きを見てまいります。10節です。△招かれたなら、末席に行って座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『友よ、もっと上席にお進みください』と言つてしよ。そのとき、ともに座っている皆の前で、あなたは誉れを得ることになります。主イエスが語られた、8節から10節の言葉を聞きますと「なるほど」と思います。ですが、主は礼儀作法を教えられるものではありません。処世術を教えられるのではありません。では、何

を教えられるのでしょうか。それは、上座に座りたいという思い、すなわち人から尊敬されたい、一目置かれたらという思いの出処です。

神から離れている人は――パリサイ人も神から離れている人に含まれますが――、人よりも偉くなりたい、みんながあこがれる存在になりたいという欲求に縛られています。生まれながらの人にとっては、それが自然体ですから、そこに問題を感じる人は、まずいません。ですが、キリストの福音の光に照らされますと、そこには高ぶりがあり、罪があるというのです。神は高ぶる者を退け、罪を嫌われます。そういう意味では、神はパリサイ人も愛してはおりませんが、その高ぶりのゆえに、その罪深さのゆえに、退けておられるという構図が見えてまいります。

三、おのれを知る

キリストの福音の光に照らされて、はっきりと分かることがあります。それは「おのれを知る」と申しましても、もちろん様々な知り方があります。私共がこだわるのは、神の家である教会においてです。教会において、おのれを知るとは、各々が主イエス・キリストの前に立つたときに分かります。すなわち、すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができない、と知ることです(↓口

1マ3・23)。にもかかわらず、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められると知ることです(↓同3・24)。すなわちキリストを信じるなら、そのままの姿で神に受け入れられる者とされます。たいせつなのは、神の前に自分の真の姿を知ることです。イエス・キリストと出会った人は知っています。「私の生まれながらの姿は神から離れている。何をやっても罪からは解放されることはない」と。同時に、次のことも知っています。「私は、イエス・キリストによって一切の罪が赦され、神に受け入れられている」と。そういうわけで、へりくだると言つこと一つを取っても、それが人間の努力としてのへりくだりであるなら、あまり意味がありませんし、神の前にはほとんど意味がありません。へりくだりはどこからやって来るのでしょうか。愛されるに値しない者が、神の恵みにより愛されている、受け入れられている、と知るところからやってまいります。キリストと出会わなければ、真のへりくだりは生まれません。へりくだり一つにしても、実は、非常に霊的な出来事なのです。

神が私たちに求めておられるのは、品行方正であることの前に、キリストとの出会いです。キリストと出会ったなら、人は救われます。それ以上でもなければ、それ以下でもありません。